### **CASE STUDY**





#### 会社概要

#### 京阪ホールディングス株式会社

設立 : 1949年11月 資本金 : 514億6,641万円

従業員数 : 145名

本社所在地:大阪市中央区大手前1-7-31

URL : https://www.keihan-holdings.co.jp

事業内容 :グループ経営に関する事業など

\*株式会社京阪ビジネスマネジメントは京阪グループ各社からの管理業務を担う子会社として2004年に設立されました。

#### 会社紹介

京阪グループの中核企業として、京阪電気鉄道、京阪電鉄不動産、京阪百貨店、ホテル京阪など約50のグループ会社を統轄する持株会社。「京阪グループは、人の暮らしに夢と希望と信頼のネットワークを築いて、快適な生活環境を創造し、社会に貢献します。」という経営理念の実現に向けて、2026年度までに取り組む長期経営戦略を定め、「沿線再耕」「観光共創」「共感コンテンツ創造」の3つの戦略を進めています。2019年1月には、同グループが培ってきたノウハウを結集し、サービスクオリティを高めた新ホテル「THETHOUSANDKYOTO」を京都駅前に開業。12月には、京都・四条河原町に新たな「食」「美」「宿泊」「体験」を提供する複合施設「のODNATURE STATION」を出店しています。

#### SAP ERPシステムのAWS移行事例



# 京阪ホールディングス株式会社 様



# グループ43社の経理業務を支えるSAP ERPをAWSへ移行 運用負荷の軽減、業務効率の向上が実現

京都と大阪を結ぶ京阪電気鉄道をはじめ、約50のグループ会社を統轄する京阪ホールディングス。かねてより同グループでは会計システムにSAP ERPを利用してきましたが、既存サーバー OSの保守切れを機に、インフラ基盤をアマゾンウェブサービス(AWS)に移行することを決断。そのパートナーとして、SAP ERPやAWS移行の実績、技術力などを総合的に評価し、BeeXを選定しました。BeeXをプライムベンダーとした移行プロジェクトは約7カ月で無事に終了。運用負荷が大幅に軽減されるとともに、経理業務が大きく効率化しました。

## サーバーOSの保守切れを機に 会計システムの新たなインフラを検討

「日本資本主義の父」と呼ばれた渋沢栄一を創立委員長に迎え、1906年11月に産声を上げた京阪電気鉄道。同社を礎とする京阪グループは現在約50のグループ会社で形成されており、運輸、不動産、流通、レジャー・サービスなど多岐にわたる事業を展開しています。近年はライフスタイルの創造にも力を入れており、2019年12月には京都・四条河原町に健康的で美しくクオリティの高い生活を実現し、循環型社会に寄与する「BIOSTYLE」を具現化した複合施設「GOOD NATURE STATION」をオープンさせました。

同グループが会計システムにSAP ERP(ECC6.0) を採用したのは2007年のことです。まずは中核企業である京阪電気鉄道が導入し、続いてバス、不動産、流通等のグループ会社に展開。現在はグループ共通会計システムとして、グループ43社の経理業務を支えています。その後、2012年にサーバーをリプレースしま

したが、それから7年が経過しサーバー OSの保守期限が迫ってきたことから、同グループでは新たなインフラを検討することになりました。当時の課題についてIT事業部リーダーの竹田和喜氏は「これまでは本社ビルのサーバールームにハードウェアを設置し、社内の要員を中心に運用を行ってきました。そのため属人化が進み、後継者の育成が課題となっていたのです。また、障害発生時もすべて社内で対応しなければならず、IT要員の負荷が増加していました」と説明します。

一方、経理部門ではグループ全体の会計を支えるシステムだけに、安定性を最優先で求めていました。この点について経営統括室 経理部(連結) 課長補佐の谷本遊紀氏は「会計システムには繁忙期でも快適に動作するパフォーマンスが必要と考えました。また、2018年6月に大阪府北部地震が発生し、さらに2018年9月には台風21号により関西地域にも大きな被害が出ました。これらの災害を受け、改めてBCP(事業継続計画)が重要な要件であると考えるようになりました」と語ります。

#### 京阪ホールディングスのインフラ環境に関する課題

- 1 運用の属人化を解消したい
- 2 繁忙期でも快適に動作するパフォーマンスを求めたい
- 3 災害対策・BCP対策を実現したい

## AWSによる解決

- 1 ハードウェアの更新や運用からの解放
- 2 レポートの出力時間が短縮するなど、経理業務が効率化
- 電害退避の環境の確保、インフラ標準化および 運用効率化を同時に実現

## BeeXの熱意と知識を高く評価 知名度より実力を重視し採用を決定

京阪グループでは、これらの課題を解決すべく、新たな インフラ基盤にクラウドを採用することを決断しました。 「クラウドで基幹システムを運用することは初めてだ ったため、経理部門からは不安の声が挙がりました。 ただ、検討を進めるうちに金融機関などでも採用され ていることなどがわかり、徐々に現場の抵抗感は薄れ ていきました」(谷本氏)

パートナーの選定においては10数社にRFIを送付。 最終的に5社へRFPを送付し検討を重ねた結果、 AWSへの移行を提案したBeeXを選定しました。そ の決め手は、BeeXがSAP ERPとAWSの双方に精 通している点にあったと竹田氏は語ります。

「AWSに詳しい会社やSAP ERPを得意とする会社 はそれぞれありますが、双方に詳しい会社はほとんど ありません。SAP ERPのAWS移行に特化したサー ビスを展開するBeeXならば、安心してSAP ERPの AWS化に取り組める、そう感じました

プロジェクトは、2019年2月にキックオフ。インフラ 基盤の設計・構築を経て、SAP ERPの開発機/検 証機/本番機およびNonSAPシステムの環境を移 行しました。2019年7月にリハーサルを実施し、ユ ーザーテストののち9月の3連休で本番環境に切り 替えています。

「移行作業には安全をとって3日間を確保しましたが、 実質的には1日で済みました。残りの2日間は夜間ジ ョブの実行などをテストし、移行直後もトラブルなく使 うことができました」(竹田氏)

プロジェクトには数多くの難所があったものの、BeeX の適切な支援もあり、どうにか乗り切ったといいます。 「BeeXからのアドバイスを受けて、既存のデータベー スに溜まっていた不要データを削除し、容量を1/3まで 圧縮しました。これが結果的に移行時間の短縮につなが ったと思います。さらに、検証機を1台AWS上に追加し、 実環境を想定した性能も確認できました」(竹田氏)



株式会社京阪ビジネスマネジメント 竹田 和喜氏



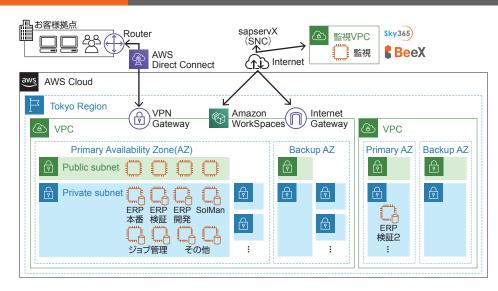
経営統括室 IT推進部 (株式会社京阪ビジネスマネジメント IT事業部) 佐田 誠氏



-経営統括室 経理部(連結) 課長補佐 谷本 游紀 #



株式会社京阪ビジネスマネジメント 経理事業部 連結グルーブ 菊池 稔 氏



本プロジェクトでは、BeeXがプライムベンダーとして インフラとSAPのBASIS層の移行を担当、これに SAPのアプリケーションの移行を担当したベンダー、 京阪ホールディングス、京阪ビジネスマネジメントの IT部門と同じく経理部門のメンバーが一体となって 作業を進めました。経営統括室 IT推進部 課長の佐田 誠氏は「当グループとしてもかなり大規模なプロジェ クトで不安もありましたが、BeeXからは各ポイントで 『順調です』という言葉をいただき、作業を完了させる ことができました」と語ります。

## 運用負荷が軽減され、経理業務が効率化 システムの安定性も増す

SAP ERPがAWSへ移行したことで、運用管理と経 理業務でそれぞれ効果が現れています。管理面では属 人的な運用がなくなり、将来にわたって持続可能な環 境が実現しました。「ハードウェアを持たなくなったこと で、IT要員の負荷は軽減されました。また、インフラの 障害対応もBeeXにアウトソーシングできたことで、 こちらの負担も減っています」(佐田氏)

経理面ではシステムのパフォーマンスが向上したこと で、レポートの出力時間が短縮されました。また、繁忙 時のログインのスピードが10分から数秒に短縮され たケースもあり、経理作業が大きく効率化しています。 さらに、システムの安定性も増しました。京阪ビジネス

マネジメント 経理事業部 連結グループの菊池稔氏は 「安定したバックアップの仕組みが用意され、障害退避 の環境も確保されたおかげで、安心して日々の業務に 従事できるようになりました」と感想を述べています。

コスト面でも、利用しないインスタンス(サーバー)を こまめに停止する運用を行うことで、当初の想定以上 にコストが軽減したといいます。今後は定額割引のリ ザーブドインスタンスの活用も検討しながら、さらな るコスト軽減を進めていく考えです。

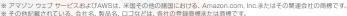
## 移行の経験を活かし クラウドシフトを推進

SAP ERPのAWS移行というプロジェクトを成し遂 げたことにより、今回の経験をもとに他システムのク ラウド移行も検討しています。その一例として京阪電 気鉄道が利用している資材システムで、BeeXの支援 を受けながらAWS上に新規導入しました。今後もク ラウドシフトを推進していく方針とのことです。

SAP ERPについては、SAPが提供する継続的品質 チェックおよび改善サービス(SAP EarlyWatch Check)を活用したパフォーマンス強化やセキュリテ ィ強化を進めていくことを検討しています。また、 2025年のSAP ECC6.0の保守サポート切れに備 え、次期システムを検討していく考えです。

今回、無事クラウド移行を成し遂げた京阪グループ。 竹田氏は「今後もAWSのノウハウを蓄積しながら、 DRの構築、運用の効率化、コストの最適化などに挑 戦していきます」と将来を語ってくれました。





※ その他記載されている。会社名、製品名、ロゴなどは、各社の登録商標または商標です。 ※ 記載されている企業名および担当者の情報は取材当時のものです。 ※ 本リーフレットに掲載されているロゴ、文章、写真その他イラストを無断で転載、複製、再利用を禁止します。



# https://www.beex-inc.com/

〒104-0061 東京都中央区銀座7-14-13 日土地銀座ビル10F TEL: 03-6260-6240